

# 事業実施報告

開催日	令和8年1月17日(土)、1月18日(日)、1月31日(土)、2月1日(日)		
事業名	テンパーク・ウィンタークラブ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	1月17日 36家族117名 1月18日 33家族113名 1月31日 30家族103名 2月1日 29家族106名
対象	小学校1～4年生の子どもを含む家族		
関係機関名	岩手県子ども会育成連合会、岩手県シェアリングネイチャー協会、滝沢里山研究会		

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

### 〔事業の内容〕

本事業は、冬のテンパークの自然を活かした活動を通して、親子が一緒に体を動かし、自然への親しみを深めるとともに、地域ならではの文化に触れる機会を提供することを目的として、全4回開催したものである。冬ならではの遊びや体験を通じて「冬の楽しさ」や「また遊びたい」という気持ちを育み、家庭での遊びや体験につなげることを目指した。

昨年度よりも実施回数を増やすと同時に、岩手県子ども会育成連合会の広報協力を得て、多くの家族に体験機会を提供した。岩手県シェアリングネイチャー協会の指導のもと、ネイチャーゲームとスノーシューを用いて冬の自然を発見する「スノーシュー探検隊」を実施した。また、滝沢里山研究会の協力により、「焚き火体験」や「かまくら・イグルー・雪洞づくり」のプログラムも展開した。その他、「そり遊び」「スノーカート」「雪のすべり台」「雪中たからさがし」、ダッチオープンでの「焼きリンゴづくり」など、多様な体験を提供した。

### 〔成果〕

#### ① 冬の自然体験活動に対する継続意欲の向上

「今回の事業をとおして、もっと家族で冬の自然体験活動をしたかったですか?」との設問に対し、参加者の98%が「もっとしたい」「したい」と回答した。冬の外遊びについては「準備が大変」「家ではできることが限られる」といった声があり、心理的ハードルが存在するが、実際に体験することで、「冬もたくさんアクティビティがあることが分かった」、「寒くて外に出たくないと思っていた気持ちが変わった」、「子どもたちが楽しそうなので、時間が作ればもっと増やしたい」などの記述が見られ、冬の外遊びへの抵抗感が軽減されたことがうかがえる。

#### ② 普段冬の自然体験をあまりしない家庭へ機会を提供し、継続意欲を高めた

本事業の参加者のうち、普段の冬の体験活動を「しない」または「シーズンを通して1～2回程度」と回答した家族は全体の40%を占め、冬の体験活動が少ない家族にも機会を提供できた。特に、普段「しない」と回答した9家族のうち7家族が継続意欲を示し、「どちらでもない」とした2家族からも、活動を楽しんだ旨の記述があった。

### 〔課題〕

#### ① 冬の体験活動に対するハードル

冬の体験をあまりしない家族からは「寒いので出たくない」「冬は家にこもりがち」といった声が寄せられ、冬の外出自体がハードルとなっている。また「準備が大変」との記述もあり、これらが継続や頻度向上の障壁になっていることが分かる。家庭外から機会が提供されることで負担感が軽減されるため、継続的に体験の場を提供していくことが、冬の自然体験活動を促進する上で重要である。

#### ② 参加者の動線・事業内容について

テンパーク内の広いエリアを活用したが、雪上の移動は参加者にとって負担が大きいため、安全に配慮しつつも、よりコンパクトな配置にできる部分がないか検討が必要である。また、事業目的に掲げる「地域ならではの文化に触れる機会」という要素が弱く、参加者に伝わりにくかったため、文化的要素の見せ方や動線の強化が課題となった。

## 状況写真



親子と一緒に  
そり遊び



スノーカートで  
雪上を大疾走



美味しい焼きリンゴで  
ほっこり



冷たいけど楽しい  
雪上たからさがし



スノーシュー探検隊で  
冬の自然を発見



かまくら作りにも挑戦